

## 第6章

# 横浜のさらなる飛躍へ

2016年に策定された「横浜ビジョン」に基づき、ラグビーワールドカップ2019™、東京2020大会を契機としたスポーツや文化芸術の振興、シティプロモーションといった様々な取組を横浜市一丸となって進めてきた。その成果が「次の世代への贈り物(レガシー)」となる。



# 次世代への贈り物・レガシー

ラグビーワールドカップ2019™ 東京2020オリンピック・パラリンピック横浜市推進本部(P44参照)を中心に、大会の成功に最大限貢献するための取組や、大会を契機としたスポーツ振興の充実、文化芸術の振興、シティプロモーション等に全庁横断的に取り組んだ。それら様々な取組の成果は、『次の世代への贈り物(レガシー)』となり、東京2020大会終了後も、横浜のさらなる飛躍へとつながっていく。

## ①大会の成功に向けてオール横浜でおもてなし

### 会場整備(環境創造局、市民局)

#### ●横浜国際総合競技場

2017年度からスタンド席の改修や、トイレのバリアフリー化、電気・機械設備の改修など様々な整備がされており、それらの成果が東京2020大会へと引き継がれた。



→東京2020大会仕様の装飾が施された横浜国際総合競技場

#### ●横浜スタジアム

スタンド及び座席は右翼側スタンド席(約3,500席)、左翼側スタンド席(約2,500席)、バックネット裏に個室観覧席(約500席)が増設された。2020年2月に全体完成後の収容人数は、従来の約29,000人から約35,000人に増加した(増築に伴う既存スタジアムの減席あり)。また、回遊デッキの新設により公園との一体化を図るとともに、観客用エレベーターが増設(8基)され、バリアフリー化が推進された。



→右翼側スタンド席及び個室観覧席は2019年3月、左翼側スタンド席は2020年4月に供用開始

### 危機対処・防災訓練(総務局)

「東京2020オリンピック・パラリンピック横浜市危機管理計画」を策定し、東京2020組織委員会、神奈川県警察、鉄道事業者等の関係機関と連携した訓練を計画。両競技会場で同時に危機事案が発生したことを想定した情報受伝達訓練や、JR関内駅(横浜スタジアム最寄駅)で不審物が発見されたことを想定した実動訓練(※大雨災害対応発生により中止)等により、危機事案発生時に迅速かつ確に対応できる危機管理体制を構築。今後の大規模イベントに生かしていく。



↑大会警戒本部では、訓練を生かしたスムーズな情報伝達が行われた



↑市庁舎には緊急車両が配備され、万全の体制で有事に備えた

## 消防対策関連(消防局)

両競技会場の競技参加選手や多数の大会関係者等からの救急要請に迅速に対応するため、東京2020大会組織委員会との協定に基づき、大会専用救急自動車として両競技会場に各3台配備し、救急搬送を行った。配備車両については、市内の医療体制に支障が出ないように予備車を活用した。



↑競技会場に配備された大会専用救急自動車

## ラストマイル安全対策(道路局)

神奈川県警察と協力し、交通安全対策の強化を目的に、両競技会場周辺において、歩道への車両突入事故を抑止する車止めやガードレール等の設置を行った。



↑横浜国際総合競技場付近に設置された車止め。横浜スタジアム周辺にも設けた

## 道路案内標識改善(道路局)

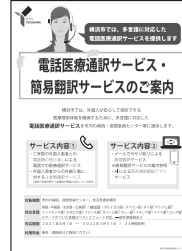
両競技会場周辺などにおいて、道路標識を訪日外国人をはじめ、すべての利用者に分かりやすいものとなるよう改善。高速道路路線番号の追加や、英語表記の見直しを実施した。



↑横浜スタジアム付近の道路標識(英語表記の見直し)

## 医療の国際化推進(医療局)

横浜市内の在住外国人及び訪日外国人が安心して医療機関を受診できる体制を整備するため、市内の病院や夜間急病センター等86か所(2021年9月末)に多言語に対応した電話医療通訳・翻訳サービスを導入した。



←対応言語は16言語(英語、中国語(北京語・広東語)、韓国語、ポルトガル語、スペイン語、タイ語、ベトナム語、インドネシア語、タガログ語、フランス語、ネパール語、マレー語、イタリア語、ドイツ語、ロシア語)

## 多文化共生推進(国際局)

在住外国人ボランティア育成事業として、講座を企画・実施した。市内案内ガイドワークショップでは、横浜能楽堂見学、伊勢山皇大神宮、野毛山商店街をNPO法人横浜シティガイド協会所属ボランティアガイドの案内により見学後、グループワークで参加者自身のガイドコースを検討した。

また、横浜マラソン2018では、歩行者がコースを横断する際のランナー誘導のボランティア体験を行った。



←横浜能楽堂での市内案内ガイドワークショップの様子



→山下公園前での横浜マラソン2018ボランティア体験

## 横浜市・都市ボランティア(市民局)

→第3章「CCY(横浜市・都市ボランティア)のあゆみ」(P65~参照)

## 事前キャンプ・ホストタウン(市民局、国際局)

→第5章「世界とつながる」(P95~参照)

## 「フラッグリサイクルYOKOHAMA」事業(市民局)

→第4章「学校と連携した取組」(P83参照)

## ② スポーツを通じて横浜を元気に

### インクルーシブスポーツの推進 (市民局)

障害の有無等にかかわらず、誰もがともにスポーツを行うことができるよう担い手を育成し、インクルーシブな環境づくりを推進するため、市内スポーツ団体(横浜市スポーツ協会に加盟する競技団体等)に対して、障害及びパラスポーツに関する理解を深める内容の冊子を制作・配付した。



←冊子「パラスポーツのすすめ!」では、パラリンピアンらの対談や障害者スポーツに関する基礎知識、障害者スポーツ実例紹介などを掲載。横浜市スポーツ協会ウェブサイトでも閲覧が可能

### 学校体育振興(教育委員会事務局)

東京2020大会を契機に、小中学生のスポーツへの取組意欲向上や技術力向上、大会に向けたホスピタリティを醸成すること等を目的に、小中学生とオリンピック・パラリンピアン等のトップアスリートとの交流を行った。



↑新体操日本代表チーム「フェアリージャパン」元キャプテンの田中琴乃さんが、市内中学校新体操部を直接指導

### 特別支援学校におけるスポーツ選手 育成強化支援(教育委員会事務局)

障害のある幼児児童生徒の自立や社会参加を促進するため、課外活動に積極的にスポーツを導入。外部コーチの招へいや、国際大会への出場奨励等の事業を展開した。

## ③ 文化芸術の創造性を生かしたまちづくり

### ヨコハマ・パラトリエンナーレ (文化観光局、健康福祉局)

ヨコハマ・パラトリエンナーレは3年に1度開催される“障害者”と“多様な分野のプロフェッショナル”による現代アートの国際展。文化芸術活動に参加したいと思う誰もが、健康や環境などの障壁(バリア)に阻まれずに参加できる環境を整え「障害者」と呼ばれる人々の個性や才能、斬新で自由な視点の数々を、アートやクリエイティブを介して有益な資源として社会に解き放つことで、誰もが居場所と役割を実感できる地域社会の実現を目指し、発展進行型のフェスティバルとして2014年から開催されている。

集大成を迎えるヨコハマ・パラトリエンナーレ2020では、オンラインとリアルを融合させて、パラトリテレビ、サーカスアニメーションやブックプロジェクトといった多彩なプロジェクトを展開した。

#### ヨコハマ・パラトリエンナーレ2020

- テーマ: our curioCity—好奇心、解き放つ街へ
- 会期: プレ期間 2020年8月24日～  
コア期間 2020年11月18日～24日

撮影:加藤甫



→市庁舎アトリウムに設置されたパラトリテレビ特設会場

## ④ 横浜を世界に魅せる

### 広告付案内サイン 公衆無線LAN整備(都市整備局)

来街者が目的地までスムーズに移動できるよう、通信環境や案内サインの整備といった情報提供面から回遊性の向上を図ることを目的に事業を実施。両競技会場周辺である都心臨海部・新横浜都心において、公民連携事業により、広告付き案内サイン及びWi-Fiを整備・供用し、来街者の滞在環境の向上を図った。



←みなとみらい21地区の案内サイン。観光拠点や主要な交差点周辺等、多くの来街者が集まる場所を中心に設置

### クールスポットマップ(文化観光局)

横浜への来街者等向けに、両競技会場周辺の「涼」をテーマとした飲食店や観光施設等を紹介するクールスポットマップを制作した。鉄道各社と連携して市内・近郊エリアに広く配架し、市内回遊促進の取組を行った。



←クールスポットマップの表紙

### テイクアウト&デリバリー横浜 (経済局)

テイクアウトやデリバリーを行っている、市内の飲食店をウェブサイトで紹介。近所のお店のおいしい料理を楽しみながら、自宅から大会を観戦するスタイルを提案した。



←ウェブサイトでは、市内のテイクアウトやデリバリーができる店舗をリスト化し、紹介している

### カーボンオフセット推進 (温暖化対策統括本部)

2050年までの脱炭素化「Zero Carbon Yokohama(ゼロ・カーボン・ヨコハマ)」を目指す取組の一つとして、2018年7月以降、東京2020大会に向けた「横浜カーボンオフセットプロジェクト」を推進。大会の市内開催に伴い排出されたCO<sub>2</sub>排出量は、本事業に応募した市民・事業者の省エネなどの協力による削減量により、差し引き排出ゼロとなった。

### 公衆トイレ等の整備 (資源循環局、環境創造局)

両競技会場周辺や観光地周辺の公衆トイレや観客用トイレについて、来街者等へのおもてなしの観点から、全面的な改修を実施。案内の多言語化や洋便器化等の改修により、利便性向上とバリアフリー化を行い、多様な利用者のニーズに対応できるようになった。

### 「花と緑にあふれる環境先進都市」 横浜の取組(環境創造局)

#### ●競技会場周辺の花と緑

横浜国際総合競技場周辺では、会場への動線となる主要な街路において、コアグラフィックス「紅」に合わせた色合いの花や、竹垣を用いた和風の花壇などで街路を彩った。横浜スタジアム周辺では、横浜公園～日本大通り～山下公園を花や緑でつなぎ、ガーデンシティ横浜を感じられる取組を発信。横浜公園では、映像などが配信されることも意識し、草花の配置を工夫した。



←横浜国際総合競技場に設置されたフラワータワーと大型コンテナ

#### ●地域が主体となった通りの緑化

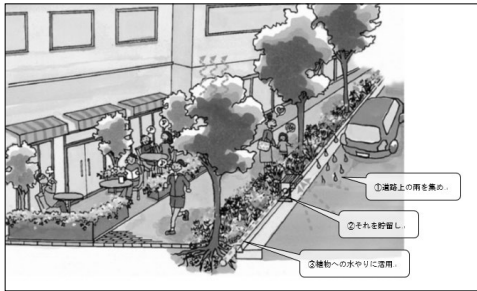
地域が主体となって、視認性の高い壁面緑化の実施などに取り組んだ。また、コンテナ花壇を民有地に設置し、街全体が緑豊かな雰囲気となるよう演出した。



→壁面緑化の高い視認性を活かし、賑わいを演出

## ●レインガーデン

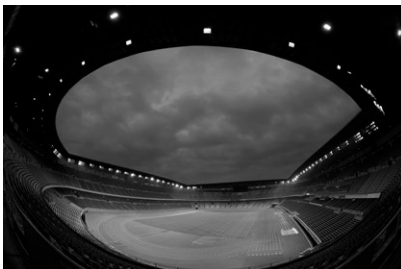
雨水を保水し、植物の生育を助ける「グリーンインフラ」の事例として、歩道や車道の雨水を花壇に引き込み、一時的に貯留し、時間をかけて浸透させる花壇(レインガーデン)を設置した。



↑レインガーデンのイメージ

## ●横浜国際総合競技場の照明LED化

照明をLED化したことで、音響と一体となった臨場感あふれる迫力ある照明の演出が可能となった。また、既存の照明に比べ、約35%の省エネを実現した。



←場内のLED照明。場外の照明はフルカラー化され、多彩な色彩での演出が可能に

## ●暑さをしのげる環境づくり

両競技会場周辺や最寄り駅周辺、ラストマイル上の公園などにおいて、道路局、港北区等とも連携し、ケヤキなどの街路樹を適切に管理し、緑陰の形成を進めた。新横浜駅前公園では、国土交通省の実証実験と連携し、緑陰とミストによる暑熱緩和アーチなどを設置した。横浜国際総合競技場では、フラクタル日除け(特殊な構造の日除け)を設置し、クールスポットを創出した。

→新横浜駅前公園に設けられた、緑陰とミストによる暑熱緩和アーチ



←横浜国際総合競技場東ゲート前広場のフラクタル日除け

## ●デザインマンホール

英国代表チームが、横浜国際プールで事前キャンプを行うのに合わせ、北山田駅周辺に“GO GB”デザインのマンホールを10枚設置した。



←設置されたデザインマンホール

## ●障害者就労支援施設等との連携花壇

大会PR花壇などを設置し、障害者就労支援施設等が維持管理を実施。華やかさや賑わいを演出した。



→新横浜駅北口駅前広場に設けられたPR花壇

## ●下水再生水の利用

花と緑への水やりに、水再生センターの下水再生水を活用。水循環の形成に寄与した。



←再生水による水やり

## ●風力発電で大会実施

大会期間中、両競技会場で使用する電力については、横浜市風力発電所ハマウイングで創出されたグリーン電力証書により、再エネ化を行った。

→横浜市風力発電所(ハマウイング)

